



Kashiwara City Museum of History
柏原市立歴史資料館

令和6年度

秋季企画展

9/10火 ▶ 12/8日

入館無料

つつみきれどころのおぼえせんず
堤切所之覚附箋図

(市指定文化財・中家文書)

洪水で堤防が切れた場所に色を変えてふせんをはり、幕府に提出しました。



大和川つけかえ運動

●文化財講演会

9月21日(土) 13:30～
「変化する大和川つけかえ運動」
安村俊史(当館館長)

●館長と学ぶ柏原の歴史講座

9月28日(土) 「古墳時代中期の柏原」
10月26日(土) 「古墳時代後期の柏原」
11月30日(土) 「高井田山古墳」
12月21日(土) 「横穴式石室と群集墳」
各回 13時30分～15時

●市民歴史大学

9月14日(土) 13:30～
「古代の天皇と大和川」
- 神武・仁徳・雄略・推古天皇と大和川 -
平林章仁氏(元龍谷大学教授)

共通事項

会場：柏原市立歴史資料館 研修室
定員：先着90名(申込み不要)
参加費：200円

●史跡高井田横穴特別公開

10月19日(土) 10:00～15:00
会場：史跡高井田横穴公園
参加費：無料/申込み：不要
◆学芸員によるガイドツアー◆
10時・11時・13時・14時
各回定員20名(先着順)

柏原市立歴史資料館

〒582-0015 大阪府柏原市高井田 1598-1
E-mail/rekishi@city.kashiwara.lg.jp
TEL072-976-3430

9:30～17:00(入館は16:30まで) / 月曜休館(祝日は開館)

← 開館状況・イベント等、詳しくはホームページをご覧ください ◆ JR 大和路線高井田駅から徒歩約5分 / 近鉄大阪線河内国分駅から徒歩約15分



大阪平野になんども洪水をおこしていた大和川は、宝永元年（1704）につけかえられました。

北へと流れていた川を、西の堺の海へと流れるようにしたのです。これが今の大和川です。つけかえ前の大和川は、久宝寺川、玉櫛川、平野川などに分かれて流れ、大坂城の北で、もとの淀川（今の大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな平野を流れていたため水が流れにくく、大雨が降るとすぐに洪水をおこしていました。

そこで、洪水に苦しむ人たちは、大和川をつけかえてほしいという願いを出すようになりました。大和川のつけかえを求める運動が始まったのは、万治2年（1659）ごろのようです。つけかえをするかどうか決めるのは幕府（国の役所）です。幕府は、つけかえてほしいという願いが出されると、ほんとうにつけかえが必要か、つけかえ工事をしてうまく水が流れるのか、などいろいろと調査をしました。

調査は万治3年（1660）、寛文5年（1665）、寛文11年（1671）、延宝4年（1676）、天和3年（1683）と5～6年に1回のペースでくり返されましたが、いつもつけかえは必要ないという結論になりました。つけかえにたくさんのお金がいること、工事をするのがむずかしいことだけでなく、つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも理由のひとつでした。新しい川ができることまる人たちが、つけかえに反対したのです。そのため幕府は、天和3年（1683）の調査のあと、「つけかえはしない」とはっきり決めました。

それでも洪水がなくならなかったもので、貞享4年（1687）にもつけかえをお願いしましたが、幕府はつけかえをしないと決めていたので、つけかえてもらうことはできませんでした。そのため大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいという願いに変わっていききました。ところが、みんながつけかえをすっかりあきらめたところに、幕府は急につけかえることを決めました。

つけかえ工事は、宝永元年（1704）の2月から10月までおこなわれました。わずか8か月というスピード工事でした。

つけかえ後、もとの大和川は新田になり、綿を植えていました。綿からつくられた布は、河内木綿として各地に売られました。洪水でこまっていた人たちは、洪水がなくなって喜びました。しかし、新しい大和川の近くの人たちには、次々どこまったことがおこりました。



つけかえ前の大和川

変化するつけかえ運動

つけかえに反対する城連寺村（今の松原市）の『新大和川掘割由来書上帳』によると、万治2年（1659）ごろからつけかえ運動が始まったようです。その次の年、万治3年（1660）に、つけかえが必要かどうかという調査を幕府が初めて行っています。

そこには、つけかえ運動を行っていたのは、芝村の三郎左衛門と吉田村の次郎兵衛だと書かれています。この2人は、曾根三郎右衛門と山中治郎兵衛のことです。2人は、天和3年（1683）の調査のときも、大和川をどこにつけかえればいいのかと幕府に説明していたようです。ほかに2人の名前があり、つけかえ運動を進めていたのは、この2人だったようです。

ところが、天和3年（1683）に幕府はつけかえしないと決めたので、この2人はつけかえをあきらめてしまったようです。そのあと、貞享4年（1687）にまたつけかえを求める願いが出されましたが、これをまとめたのが中甚兵衛です。

しかし、つけかえどころか水がうまく流れるような工事してもらうことができませんでした。やがて甚兵衛といっしょに運動する人たちは少なくなっていました。そんなときに幕府は急につけかえを決めたのです。甚兵衛があきらめずにがんばっていたのがよかったのだと思います。でも、甚兵衛が50年もつけかえ運動をがんばっていたとか、みんなが甚兵衛に協力して運動をしていたということはなかったのです。

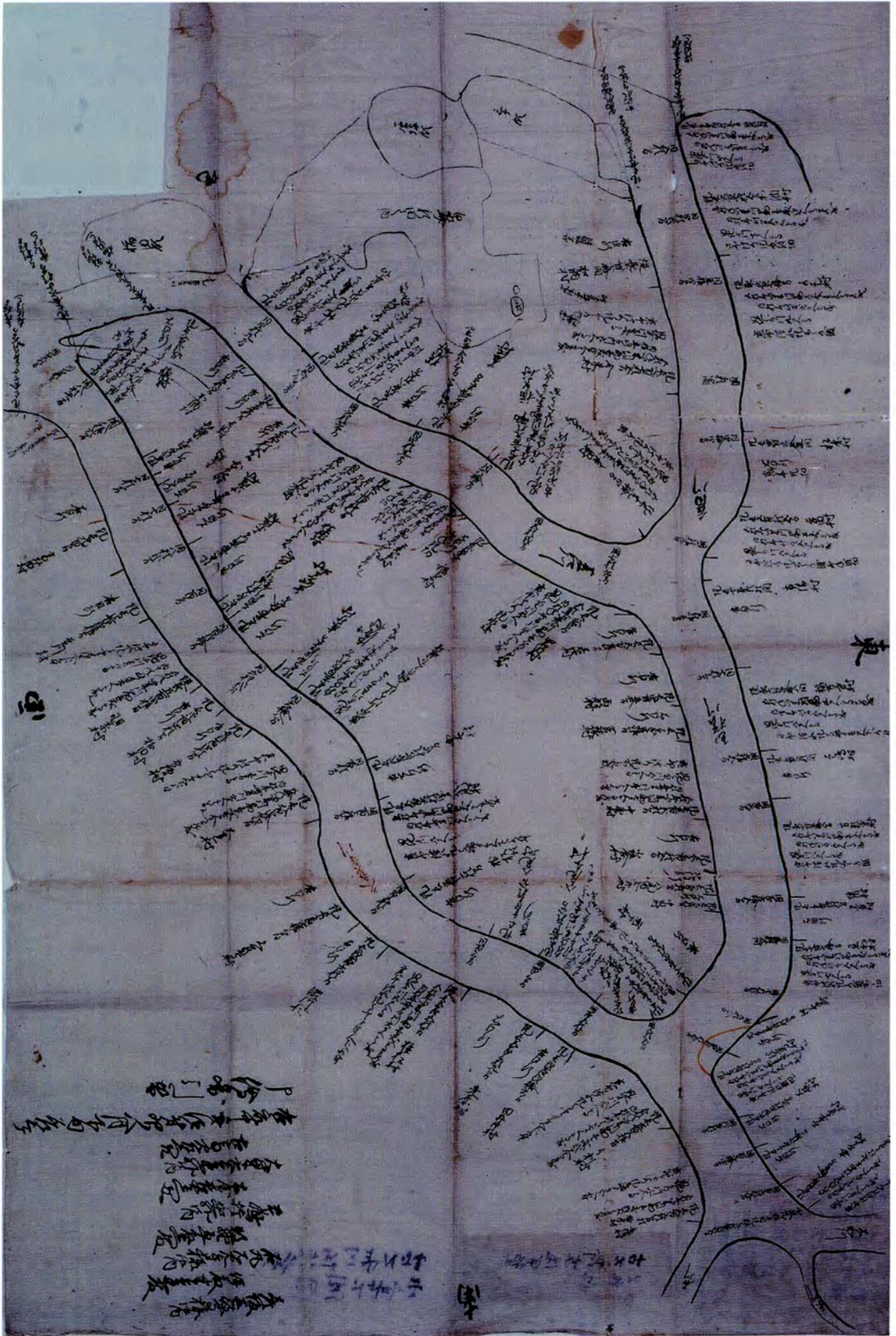
急に決まったつけかえ

つけかえを求める運動は終わり、川の工事を求める運動に参加する人たちも少なくなっていました。それなのに、幕府は急につけかえることに決めたのです。

つけかえ工事には、71,500両ほどのお金がかかりました。幕府が出したのは37,500両ほどで、残りの34,000両ほどは工事を手伝うことになった大名たちがはらいました。もとの大和川を新田にするためには幕府にお金をはらわなければなりませんでしたが、それで幕府に入ったお金がおよそ37,000両でした。つまり、幕府が工事で使ったお金のほとんどが新田を作るためのお金でもどってきたのです。

新しくできた新田は、新大和川をつくるためにつぶれた田畑の4倍の面積になりました。新しい新田からは、幕府に年貢がおさめられます。幕府は、つけかえ工事をすることによって、たくさんお金が入ってくる方法を考え出したのです。この方法を考え出したのは、幕府の万年長十郎という人でした。いくら工事をしても洪水がなくならなかったことや、小さくなったとはいえ甚兵衛らが運動を続けていたことも大きかったでしょう。

こうして、幕府はたくさんのお金が必要となるはずの大和川つけかえ工事を、お金がはいつてくる工事として行うことができました。これが大和川つけかえ工事がおこなわれることになったほんとうの理由なのです。



こやまがわつけかえまえすいがいしたらず ていぼうひかくちょうさず えんぼう なかけもんじょ していぶんかざい
 古大和川附換前水害下調図 (堤防比較調査図、延宝3年・1675、中家文書、市指定文化財)

かわはば すいめん ていぼう さ きにゆう えず きゆう りゆういき てんじょうがわ
 旧大和川の川幅、水面と堤防の高さの差などが記入された絵図。旧大和川の流域全体が天井川
 だったことがわかる。